

平成30年度 日本大学スポーツ科学部個人研究費 研究実績報告書

所属: スポーツ科学部 競技スポーツ学科

資格: 准教授

氏名: 今野 広紀

研究課題		結腸がん手術適応の軽快患者の予後因子の検討～診療報酬制度上の評価のあり方の視点から
報告の概要	研究目的及び研究概要	<p>研究目的 本研究では、結腸がん手術適応となる、退院時転帰が「軽快」の患者の予後因子について、入院時併存症・入院後合併症の発症の有無が、在院日数にどのような影響を与えているかを推定することを目的とする。</p> <p>研究概要 入院時併存症としては、「イレウス」「消化管出血」「腹膜炎」の3疾患、入院後合併症としては、「イレウス」「消化管出血」「腹膜炎」「膿瘍・術創感染症」「急性循環不全」の5疾患を在院日数の長期化因子とし、多重回帰分析と生存期間分析によって、これらの疾患の発症の影響を推定する。</p>
	研究成果	<p>・回帰分析の結果、①イレウスの発症は在院日数を87.30%増加させ、②消化管出血は48.50%増加させ、③膿瘍・術創感染症は80.35%増加させ、④急性循環不全は72.19%増加させることがわかった。</p> <p>・在院日数の累積確率を求めた結果、①開腹による結腸切除術を受けた軽快患者は、イレウス、腹膜炎、膿瘍・術創感染症の合併症を発症しなければ、3週目にはその約90%が退院を期待できるが、これらが発症した場合には同時点で約10%しか退院を期待できないこと、②内視鏡切除術を受けた軽快患者は、腹膜炎、膿瘍・術創感染症の合併症を発症しなければ、10日目にはその90%が退院を期待できるが、腹膜炎を発症した場合には同時点で約50%、膿瘍・術創感染症を発症した場合には同時点で約20%しか退院を期待できないこと等がわかった。</p> <p>本結果は、現在、分析を継続しており、それを踏まえて、論文として投稿予定である。</p>
研究業績	<p>・論文および著書</p> <p>著者名・論文標題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数</p>	なし
	<p>・学会発表等</p> <p>発表者名・発表標題・学会名・発表年月日・発表場所</p>	なし
	<p>・その他</p> <p>*学会・競技団体報告書など 著書名・標題・掲載誌名 発表年月・発行所 *講演会、研究会、研修会、セミナー等での講演発表 発表者・発表年月・題目名・講演会名 *社会貢献活動等</p>	なし